



中学生の皆さんと「地球温暖化防止と国際交渉」について考えました

残暑厳しい2016年9月30日(金)、CASAは学校法人甲南学園 甲南中学校(兵庫県芦屋市)で出前授業を行いました。迎えてくれたのは中学3年生の皆さん。出前授業全体のテーマは「地球温暖化防止と国際交渉」で、1限目は講義編・2限目はワークショップ編という構成で実施しました。



1限目は、まずCASA会員の久保ゆりさんが「地球温暖化とその影響」について話しました。地球温暖化が進みつつあること、世界の年平均気温が高かった上位10年は、生徒の皆さんが生まれた2002年以降の年がランクインしていること、世界の平均気温が工業化前からたった0.85℃上昇しただけで温暖化による影響が世界中で観測されていることなどについて具体例を挙げて話しました。特に地球温暖化問題の深刻さは、世界中の人々の生活の基盤となるすべてのものが脅かされることであり、日本に住んでいてもその影響を免れないという点や、より深刻な被害を受けるのはこれまで温室効果ガスをほとんど排出してこなかった、温暖化に対応する資金や技術がない脆弱な国々であるという話に、生徒さんたちは真剣な顔で聞き入っ

ていました。続いて、CASAスタッフの土田から、2015年12月に採択されたパリ協定のポイントを紹介し、国連の国際交渉の場であるCOPの様子や、国際交渉の経過などを話したあと、日本の交渉姿勢が世界からどう見られているか、CASAのような環境NGOが現地でどんな活動をしているかなどについて話しました。

2限目は冒頭に1限目の講義編のポイントを確認したうえで、「交渉を進めるために日本が提案できることは何だろう」というテーマで、グループ・ディスカッションをしてもらいました。出た意見の中から「日本がこうすればいい」と思うトップ3を決めて、グループごとに発表してもらいました。ここでは「炭素税をかける」、「途上国に資金や技術(者)を送る」という提案から、国内で使う電力量を

減らす対策として、たとえば「日本中のクーラーを集中管理する」、「計画停電の日を設ける」などの提案のほか、大量に排出される二酸化炭素を人為的に吸収させるための対策として、「石などに二酸化炭素を吸収させる技術を発明する」案や「人間ハイブリッド化(人間が光合成できるようになれる技術)」案など、中学生らしいユニークな提案もありました。

今回、午前のクラスで44名・午後のクラスで29名の生徒さんに出前授業を行いました。生徒の皆さんが地球温暖化問題の解決のために何ができるかを真剣に考え、また積極的に発言してくれ、出前授業は大成功だったと思います。

土田 道代 (CASAスタッフ)